

伊豆縦貫自動車道の早期全線開通を求める意見書

伊豆縦貫自動車道は、新東名・東名から伊豆半島南部までを結ぶ高規格道路であり、日常生活や観光、産業活動の交通手段を自動車に依存せざるを得ない伊豆半島において、重要な社会基盤である。また、「経済の好循環」、「災害時の救援活動支援」、「救急搬送時等の医療活動支援」、「観光振興の支援」など、平常時・災害時を問わず様々な効果を生み出す道路として、その役割が期待されている。

これまでも、一日も早い全線開通を目指し、昭和62年に伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会が、平成元年には伊豆縦貫自動車道建設推進期成同盟会が発足している。令和6年7月26日に開催された合同促進大会では、早期全線開通に関する決議が採択され、自然災害等から住民の命を守る「命の道」として、伊豆縦貫自動車道の整備を望む機運はこれまで以上に高まっている。

令和6年能登半島地震では、甚大な被害が発生するとともに、多くの集落が孤立した。また、国道249号や自動車専用道路などの幹線道路が土砂崩れ等により通行止めとなり、支援物資の輸送や救援部隊の移動に多大な支障が生じ、道路整備の重要性が明白となった。静岡県においても、南海トラフ巨大地震が発生した場合、急峻な地形を有する伊豆半島は陸の孤島となる可能性が高く、緊急輸送道路としても伊豆縦貫自動車道の整備が不可欠である。

下田市議会は、伊豆縦貫自動車道の早期全線開通により、伊豆半島の経済的発展や観光振興だけでなく、「命の道」の役割である安全安心な生活環境の確保を実現するよう、下記事項について強く要望する。

記

1. 河津下田道路について、事業を推進し早期に全線開通すること
2. 天城峠道路について、早期工事着手と未事業化区間の早期事業化を図ること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和6年12月13日

静岡県下田市議会

衆議院議長 殿 参議院議長 殿
内閣総理大臣 殿 内閣官房長官 殿
内閣府特命担当大臣(防災) 殿 財務大臣 殿
国土交通大臣 殿